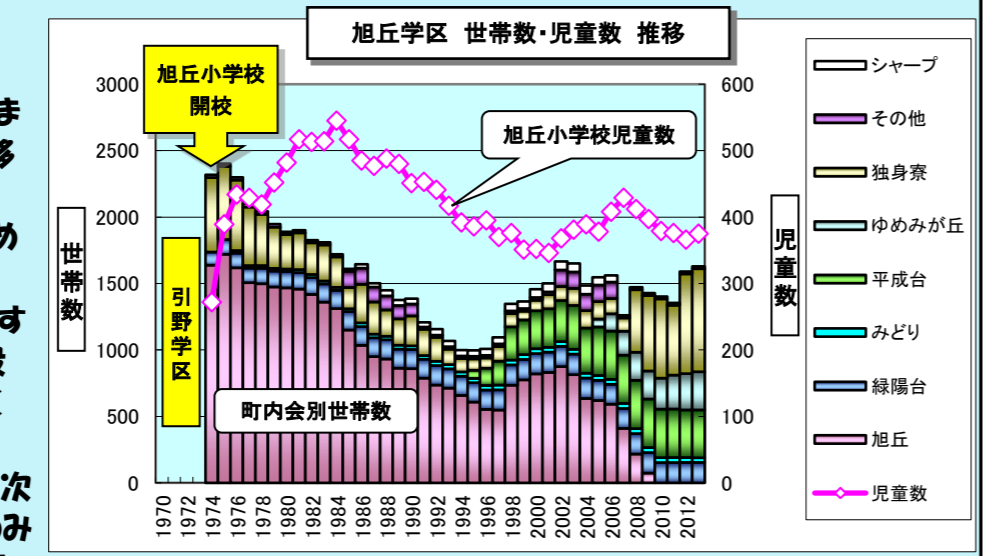


**旭丘学区の歴史**

旭丘学区は、発足から40年を経過しましたが、その変遷は社宅と新興団地の移り変わりの影響を大きく受けています。特に学区発足当時、学区の大半を占めていた「社宅居住者による旭丘町内会」は、社宅の閉鎖により、今ではその面影すらなくなり、その地には「独身寮」が新設され、多くの若者が暮らす街へと大きく変貌しています。学区発足時からの「みどり・緑陽台」に次ぐ第3、第4の団地として「平成台・ゆめみが丘」が開発され、今では学区一般世帯の80%を占める中心的な町内会となっています。



今は無くなった「社宅群」



旭丘学区は、全国各地にふるさとを持つ人の集まりであることから、発足当初から一貫して「住民の交流(絆づくり)」に主眼を置いた地域活動を展開してきました。今でも、新たな居住者を迎えていることから、これからも、住民一人ひとりが旭丘に愛着を持ち、ともに手を携えて暮らすことのできる地域を目指すことが大切です。



学区文化祭

**これからは「経験したことのない」課題に直面する**

**【高齢化】**  
今後、旭丘学区も「高齢化」は避けて通れない問題として益々顕在化すると考えられます。旭丘は、今まで社宅の居住者や団地に転居した居住者といった「若い世代が中心の学区」であったため、高齢化という課題には直面したことがありません。しかし、近年高齢化が進み「高齢独居」や「高齢者世帯」の増加が顕著となり、



学区敬老会

\* 買い物や外出、病院通いも不便  
\* 町内会などの組織化も困難など、暮らしに直接影響するような問題が発生すると考えられ、今まで経験したことのないまちづくりが必要となってきます。そのためにも、高齢者の想いを聴きながら、また市内には、すでに高齢化に対応したまちづくりを展開している学区もあり、そのような学区の取り組みを参考にしながら、旭丘のまちづくりを進めることが重要です。

この「旭丘学区まちづくり計画」は、  
・学区民のみならず、いつまでも住み続けたいと思う地域  
・旭丘を巣立った子どもたちが、将来「旭丘に帰りたい」と思ってもらえるような地域  
・高齢の方が日々の生活において、笑顔で安心して暮らしていける地域  
を、住民皆さまの参加によって進めることをめざしております。今後、旭丘学区におけるまちづくりの『柱』となっていく計画です。

- 【地域の皆さまにお願いすること】**
- ①まちづくりへの積極的な参加をお願いします。  
(「自分たちのまちは、自分たちでつくる」が基本です)
  - ②まちづくりへの意見や提言をお願いします。  
(住民目線での意見、要望、提言は、重要な情報源となります)



学区民運動会「40周年風船飛ばし」

# 旭丘学区 まちづくり計画

2014年2月発行



**【この10年間に、大きく変化した旭丘】**

1974年、雑木林と畑しかなかったこの地に、地元大企業の高層社宅の林立により居住者が増え、引野小学校から分離する形で、旭丘小学校の開校とともに「旭丘学区」が発足し、幾多の変遷を経て、今年度(2013年度)40周年を迎えました。

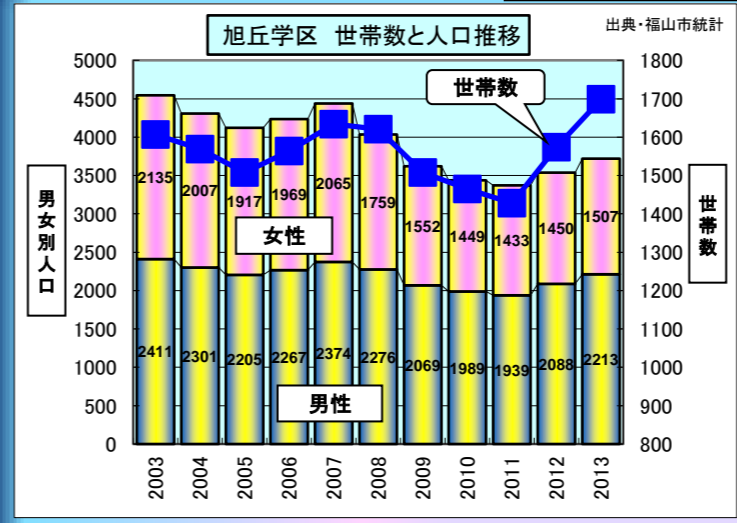
この10年間をみても、「ゆめみが丘」という新興住宅団地造成と「企業の社宅閉鎖・独身寮新設」など、その姿は大きく変化してきました。

現在は、一般世帯約800戸・独身世帯約800戸という、福山市内にも類を見ない特殊な形態の学区となっております。

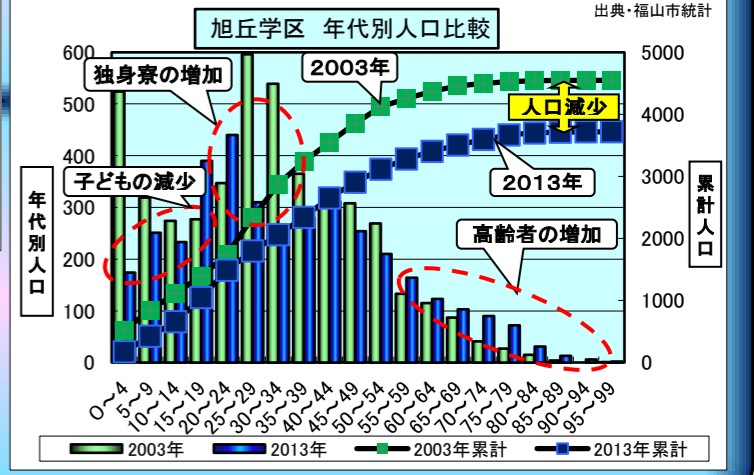
その結果、「子どもの減少」「高齢者の増加」が顕著となり、これからもこの傾向はさらに進むと考えられます。

これからのまちづくりは、「人と人のつながり」は勿論ですが、「互いに助け合う」という行動を伴った取り組みが、少子高齢化という課題に対応したまちづくりと考えます。

**旭丘学区 10年間の変化**



**【学区居住者数の変化】**  
一般世帯の減少・独身世帯の増加  
\* 学区居住者数は減少傾向にあり、800人の減少となっている。  
\* 世帯数は減少傾向にあったが、独身寮の新規入居により増となっている。(2013年独身寮入居者約800人)



**【年齢構成の変化】**  
若年層の減少・高齢者の増加  
\* 0歳から14歳の人口が500人減少  
\* 15歳から64歳の人口が500人減少  
\* 65歳以上の人口が150人増加

旭丘学区 まちづくり推進委員会